コンクール　最優秀作品紹介

【小学校低学年の部】

わたしとおにいちゃん

蓬田小学校1年　**國分愛梨咲（ありさ）** さん

しょうがくせいになってはじめてのなつやすみ。

がっこうで一さつのほんをかりた。なつやすみ、すこしちいさいもじで、もじがおおいほんをよんでみようとおもった。

ひょうしをみて、ふたりはなかがいいしまいで、たのしそうなほんだとおもって、このほんをえらんだ。

おねえちゃんのかえでちゃんは、なんでもできて、なんでもわかって、つくしちゃんのじまんのおねえちゃん。

でも、つくしちゃんはおねえちゃんばかりほめられていいな、とおもっているとおもう。わたしにもおにいちゃんがいる。おにいちゃんはずるいとおもうことがある。いつもおにいちゃんばかりいいおもいをしているからだ。

しかも、わたしよりできることがたくさんあるし、くやしい。ほんをよんでいくと、か

【小学校中学年の部】

いのちをいただく

小平小学校3年　**吉田　玲望（たまみ）** さん

この本に出てくるお父さんは、食肉加工センターではたらいています。牛をお肉にする仕事がいやで何度もやめようと思ったけど、とても大切な仕事だと分かって、もう少し仕事を続けてみようかと思ったお話です。

お父さんは坂本さん、子どもは小学校三年生のしのぶくんという男の子です。しのぶくんはお父さんの仕事を先生に聞かれて「肉屋です。ふつうの肉屋です。」と小さな声で答えました。しのぶくんは、お父さんの仕事をかっこ悪いと思って、みんなには言いたくなかったのかな、と思いました。

でも、しのぶくんは先生との話の中で、お父さんの仕事は、みんながお肉を食べるために大切な仕事だと気づきました。わたしも、坂本さんたちが牛をお肉にしてくれるから、おいしいお肉をたべることができて、みんなが元気に生きていけるんだと思いました。

わたしが心にのこった場面は、みいちゃんという牛がお肉になる前の日に、いっしょにそだってきた女の子が「みいちゃん、ごめんねぇ。みいちゃん、ごめんねぇ。」と話しかける場面です。その様子を見ていた坂本さんは明日仕事を休もうと思いました。でも、しのぶくんから「牛のことを大切に考えてお肉にする人がやった方が、牛が苦しまない。」

【小学校高学年の部】

自分との約束

蓬田小学校5年　**磯　愛香（あいか）** さん

「どんなに結果が悪くても、あきらめないでがんばることが大事。そうすれば絶対力がつくから。」と私のお母さんは、私やお兄ちゃんによく言っています。私はこの本を読んで、お母さんが言っていた言葉の意味がよく分かりました。

主人公の光平は夏休みのある日、亡くなったおばあちゃんの願いがかなうふしぎな「日記帳」を見つけます。そして、試しに書いた願い事がかなったことから、いろいろな願い事を日記に書いていきます。私だったらどんな願い事を書こうかな、と思いながら読み進めました。光平の願い事はどんどんかなっていきました。でもそれは、簡単にかなった事ばかりではありませんでした。日記の六ページ目に書いた「ぼくは泳げるようになった」という願い事は、光平がくじけそうになってもあきらめないでがんばったからかなった願い事でした。

光平ががんばる姿を読んでいて、私はできるようになりたいと思ってがんばった鉄ぼうの練習を思い出しました。去年、私は逆上がりができなくて、一生けん命練習しました。逆上がりができる友達を見て、私もあんなふうにできるようになりたいと思い、練

えでちゃんは、できるようになるまでれんしゅうしたり、どりょくしたりしていることがわかった。わたしのおにいちゃんも、そうだったのかな。

わたしがおどろいたことは、かえでちゃんのあしがすこしわるいということ。でも、ともだちがいっぱいいるし、いつもつくしちゃんにはきびしいけれど、とてもやさしい。すばらしいおねえちゃんだとおもった。おにいちゃんはスポーツしょうねんだんでソフトボールをやっている。いえでもれんしゅうをして、いまはピッチャーをしている。がんばっているから、おにいちゃんは、できるようになったんだとおもった。

このほんをよんでいたときは、おにいちゃんがかえでちゃんみたいだったらいいのに、とおもっていた。

おにいちゃんとの一にちをおもいだした。べんきょうもがんばっているし、わたしにもまわりのひとにもやさしいいし、じまんのおにいちゃんだ。これからもたくさんけんかするかもしれないけれど、おにいちゃんとなかよしでいたい。

そして、おにいちゃんのように、わたしもいろいろなことにちょうせんしていきたい。

と言われたから、坂本さんはがんばってお仕事に行きました。みいちゃんがお肉になるとき、みいちゃんの大きな目からなみだが出てきました。みいちゃんはじっと動かずにいて、いのちをとかれました。その時、みいちゃんはそだててくれたおじいさんや女の子や坂本さんから大切に思われている事を感じて、じっとしていたと思いました。わたしはとても悲しい気持ちになりました。

はじめは食べたくないと言っていた女の子も「みいちゃんいただきます。おいしかあ、おいしかあ。」と言って食べたことを聞いて、坂本さんが仕事を続けることにしました。わたしも、いろいろないのちに感しゃして大切に食べようと思いました。

わたしの家でも牛をかっています。おばあちゃんが牛にえさや水をやったり、牛を外に出したり、牛をあらったりしています。暑い時も寒い時もいっしょうけんめいお世話をしています。わたしも、えさやりやこぼれたえさのそうじを手伝うことがあります。牛がびょう気になると、おばあちゃんはえさのやり方をなやんだり、じゅういさんをよんだりします。とても心ぱいそうです。牛をそだてるのは大へんです。そうやって大事にそだてられたいのちをといて、わたしのいのちになっています。

いのちは、一つしかない自分の大切なものです。わたしが毎日いろいろなもののいのちをいただいて育っていける、元気にすごせるのはすごいことだと思いました。だから、自分のいのちだけではなく生き物や植物のいのちを大切にして、勉強したり遊んだり学校に行ったりしたいです。

習をたくさんしました。手がいたくなったり、体が思うように上がらなかったりして、と中でやめたくなることもありました。でも、あきらめないで続けていたらいつの間にかできるようになりました。できたときのうれしさは、今でも忘れられません。あのときは深く考えなかったけれど、目標をもって最後まであきらめずにチャレンジしたからできるようになったのだなと思います。

光平は日記に自分の願いを書くことで、これは自分との約束、そして、書いた望みをかなえられるのは自分なのだと気づきます。ま法ではなくて、努力したから実現したのだと自信につながりました。私も逆上がりができるようになったとき、やればできるのだと自信がついて、パワーアップしたような気持ちになりました。

この本を読んで、光平が願いをかなえた姿から、自分ががんばった鉄ぼうのことやお母さんの言葉を思い出して、目標を持つことやそれに向かってあきらめないでがんばる大切さを改めて感じました。私も、光平のように目標や夢をノートに書いてみて、実現するためにはどうすればいいかを考えてみようと思いました。私が一番実現したいことは、ピアノが上手になることです。そのために、毎日少しでもピアノの練習をすることをノートに書きました。文字にして書いただけで、がんばろうという気持ちになりました。

これからも、努力することやあきらめないで続けることを忘れずに、いろいろなことにチャレンジしていきたいと思います。なりたい自分になれるように、自分との約束。